

ジャムズネット東京メンバーインタビュー 第14回

聞き手：池田みどり

日本語で受けられる海外メンタル相談機関、帰国生や外国の方々の方々のこころの相談機関、障がいを持つお子さんと海外で暮らすご家族への支援として海外日本人学校や海外幼児教育施設での障がい児受け入れ状況一覧などのリストを提供しているのが Group With です。海外在住経験を持つ4人の主婦が、足と熱意で集めたリストは、使う立場にたって作られ、信頼度が高いものとして、徐々に認知度が上がってきています。今回はどのような想いで、そしてどのようにこのリストが作られているかをお聞きしました。(今回のインタビューでは阿部さんは出席できませんでした。)

■ Group With ※写真は左から桜木さん、代表の諏訪さん、松井さん



- グループ概要:(諏訪美草・阿部恵美子・桜木和子・松井智子)
- 海外在住邦人や帰国者のための「こころの相談機関」のリスト作成、海外で障害のあるお子さんと暮らすご家族のための情報提供、セミナーの開催などを行う。
- ホームページ:<http://groupwith.info>

・活動内容を教えていただけますか？

諏訪：

活動には二本柱がありまして、ひとつは海外在住邦人あるいは帰国者のためのメンタルヘルス、もうひとつは障がいのあるお子さんをサポートするということです。それに関連して相談機関や、海外日本人学校や海外幼児教育施設の受け入れ状況を調査し、リストにしています。また、年に1回、それに関するセミナーを主催したり、インタビューを行ったりしています。

・Group With を立ち上げたきっかけを教えてください

諏訪:

私たち4人は海外在住経験があります。帰国後、帰国子女を支援する草分け的なボランティアグループ「フレンズ 帰国生 母の会」に所属していました。

松井:

ひと世代前では、子供を海外で教育して就学年齢で帰国させた場合、受け入れる学校があまりなくて、言葉・文化・勉強の進み具合の違い・進学などの問題を抱えていました。さらに、画一的な受け入れだけでなく、帰国生の特色を認めてもらえないということが活動の始まりでした。

桜木:

教育に関する事項は年々改善されていきましたし、帰国生の数が増えれば受け入れ体制も充実してきます。私たちはそういうサポートではなく、もっと他に必要とされていることがあるのではないかと、4人で話し合い、2002年に独立をしました。

松井:

いただく相談の内容から増えてきたのが、海外・国内問わず、「心の相談をどこにしたらよいかわからない」ということでした。

桜木:

きっかけは国内からのご質問でした。帰国後かなり年月が経っているにも関わらず、適応障害を抱える方が、「どこに相談に行ってもいいのかわからない、そのようなリストがあるのか」という質問でした。いろいろ探しましたが、そのようなリストは見当たりませんでした。そこで、自分たちでそのような相談機関を探してみようということになりました。海外にも同じようなニーズがあるだろうということで、手分けして調査を始めました。

・リストアップされる機関はどのように見つけていらっしゃるのですか？

諏訪:

国内は本やインターネットで調べます。米国の場合は9.11テロ後、在米日本大使館に一時的に在NYのカウンセラーのリストが載りましたので、それを参考にしました。国内・海外とも調べているうちに、リストに載っている先生方から紹介をいただけるようになりました。そのようなご紹介でずいぶん膨らんでいきました。

桜木:

海外が当初、37くらいでしたが、現在69ほどのデータ数になりました。セミナーの講師の方にお声をかけてご紹介いただいたりもしています。海外に行った際にも、コミュニティに声をかけてご紹介いただいたこともあります。

松井:

私がロンドンにいた時にも、医務官の先生にご紹介いただいたり、地方のタブロイド紙をチェックしてクリニックを探し当てて、個別にお願いをしたこともあります。またその先生が他の方をご紹介してくださいました。英国に関してはそのようにしてリストが増えました。

諏訪:

最近は、ご自分から載せてくださいという方も増えてきました。

松井:

逆に「この機関はリストに載せない方がよいだらう」というご指摘を受けることもあります。

諏訪:

私たちは推薦できる機関を載せているわけではなく、あくまでも相談機関選びの一助としてこういうところがあるという情報提供です。

松井:

4人ともメンタルヘルスの専門家ではないので、直接ご相談を受けたり治療に関わることは一切していません。情報を必要としている方々に、必要な機関をお伝えできればよいと思っています。

諏訪:

困った時にどこへ行けば相談が受けられるか、どういう手だてがあるかという情報を提供するという立場です。

松井:

私たちは、一切営利目的はありませんので、自分が相談者の立場におかれた場合、どのような機関があればよいかと考えながら、リストアップしています。海外の先生方はお目にかかれないので、いろいろな方のご紹介で選ばせていただいています。

・調査方法について

諏訪:

これはどのリストでも同じですが、アンケートの質問事項は所在地などの基本情報のほか、リストを使う立場、つまり海外生活者、特に母親の立場でお聞きしたいことを伺っています。作成過程では精神保健専門家の先生にアドバイスもいただきました。

桜木:

先生方からはとっても温かいご助言や励ましをいただいています。それが私たちにとっては、先に進むエネルギーになっています。先生同士のネットワークというのが、あまりなかった中で、このリストができることによって、お互いに認知されたということもあるようです。それがお役に立てたことのひとつかなって思います。実際、ご家族の方がこのリストを使っていたかどうかは、見えないのでわからないのですが、シンガポールの先生

から「帰国される方にはこのリストを見せているんですよ」というようなことを聞くと、とてもうれしいですね。

・障害児のためのリスト

諏訪:

通常の学級にいる特別な教育的支援を必要とする子どもは、国内で約6パーセントにのぼると言われています。それと同じくらいの数が海外にいても不思議ではありません。たださえ、海外に行って生活するのはたいへんですが、障がいを持ったお子さんを連れていく時に、そのような情報が本当に少ないのです。こちらのリストでも「障がいを持つ子どもの受け入れ」が可能かどうかというような専門家の立場ではなかなか質問できない部分も母親の強みでお聞きしています。

桜木:

障がいのあるお子さんを支援する海外のリストを作るにあたっては、独立行政法人 特別支援教育総合研究所の後上(ごかみ)鐵夫先生のご助言・ご協力をいただき、本当に感謝しております。

「こころの相談機関リスト」については、外務省医務官の仲本光一先生(当ジャムズネット 東京代表)のご協力がありがたかったのと同じように、障がい児の支援リストについては、後上先生のご協力がなくてはならないものでした。

・アンケートの傾向について

桜木: 2006年から調査を始めたのですが、かなりの日本人学校が情報を公表するということに不安を持たれたのか、初めは非公開の回答が多かったですね。

諏訪:

アンケートには、各項目に公開か非公開かをチェックする部分があるんです。

桜木:

だんだんと公開してもよいというところが多くなり、回答率もひじょうに高くなってきました。

松井:

障害を含む内容の場合、個人情報かわからない形であれば出してもよいという回答やそれ以外の項目は公開してくれるところが増えました。

桜木:

海外赴任の年齢層が低くなってきているということで、現地出産や、幼い子を連れていくケースが増えているようです。ましてや発達障害の子供を連れて行く場合は、受け入れてくれる幼稚園があるのかという問題もできます。ということで今年は「海外幼児教育施設

の障がい児受け入れ状況一覧」のリストを作成しました。

諏訪:

アジアは若年層の赴任が多く、就学前のお子さんも多くいます。日本ですと1歳半・3歳児の発達検診がありますが、海外ですとその機会があまりありません。米国では障がい児のケアは進んでいますが、多くのアジアの国ではまだまだ遅れています。

・今後の活動について教えてください

諏訪:

Group With は4人なので、あまり幅を広げず、基本的にはこの状況をさらに充実したものにしていくことを考えています。今の若いお父さん、お母さんのことを知るためにも、絶えずいろいろなところにアンテナを張って、みなさんの必要とすることを吸い上げた上で、サポートしていきたいと思っています。

松井:

Group With のスタートは子供の教育でしたが、こころの相談機関リストを作り、障がい児支援のリストも作ってきました。自分のことを振り返ると、徐々に年齢も重ねてきています。時々思うのが、海外でのご高齢者はどうされているかということです。気にはなりますが、今はこのリストを充実させていくことが優先事項だと思います。

桜木:

リストを作ってもそれを利用していただくことがないとフィードバックを得られません。どのようにしたら、みなさんにこのリストを広く知っていただくかということが、今後の課題だと思います。

・ジャムズネット東京に期待すること

諏訪:

すごいネットワークですね。これを活かさない手はないですね。

桜木:

医療相談の窓口もできましたね。

松井:

東京だけでなく、地方にも素晴らしいメンバーの方々がいらして、打てば響くようなやり取りをされていて、驚いています。専門家だけでなく、私たちのような一般市民の立場のメンバーがもう少しいてもよいかと思います。

桜木:

専門家の方を対象とした学術的なものよりは、一般の方々を対象とした、読みやすく参考になる読み物がジャムズネット東京のホームページにあるといいですね。